

最先端科学に触れる

インドネシア高校生 遺伝研など見学



「遺伝子と移民の歴史」の講義で興味深そうに質問するインドネシア西ジャワ州の高校生たち＝三島市谷田の国立遺伝学研究所

三島市谷田の国立遺伝学研究所をこのほど、インドネシア西ジャワ州の高校生が見学

に訪れた。国際ジュニア数学オリンピックの銀メダリストら理系を専攻する有能な1〜3年生8人で、さまざまな生物のゲノム(遺伝情報)解析に使う「シーケンサー(塩基配列などの解析装置)」や遺伝子の歴史講話などを通じ、知見を広めた。科学技術振興機構のさくらサイエンスプラン(日本・アジア青年サイエンス交流事業)を活用した、県の取り組み。日本の最先端科学技術に触れてもらうのが目的で、生徒らは2日間で1週間の日程で県内を訪れ、浜

松医科大で血管内皮の研究に触れ、静岡がんセンターで手術支援ロボット体験などに参加した。

遺伝研では、マレーシアを中心としたアジアの遺伝子データを使用した「人類の移動の歴史」について専門のジナム・ティモシー助教から学んだ後、鈴木睦昭室長の案内でシーケンサー室を見学した。ファラー・アザリニさん(17)は「本で読

むだけでなく、研究をここの大切さが、よく通じて答えを見いだす分かった」と語った。